

令和7年度

## 教職課程

自己点検・評価報告書

鶴見大学短期大学部

令和8年3月

## 鶴見大学短期大学部 教職課程認定学科（免許校種・教科）一覧

- ・保育科（幼稚園）
- ・専攻科保育専攻

### 全体評価

鶴見大学短期大学部保育科・専攻科保育専攻における教職課程は、建学の精神である禅仏教の理念を基盤とし、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーが一貫して機能している点に大きな特色がある。これらの方針が教職課程運営委員会を中心とした組織的な連携体制のもとで共有され、教職員が共通理解をもって教育に取り組んでいることは、本学部の教育の質保証を支える重要な基盤となっている。

学生支援に関しては、入学前教育から卒業後のキャリア形成まで、切れ目のない支援体制が整備されている。特に、担任制による個別支援や少人数教育の利点を活かした丁寧な指導は、本学部の教育の強みとして高く評価できる。高い免許状取得率と就職率は、こうした日々の取り組みの成果を示すものであり、地域の保育現場から寄せられる厚い信頼にもつながっている。

カリキュラム面では、附属幼稚園との連携をはじめ、実践的な学びの機会が豊富に提供されている点を評価したい。専攻科における往還的学修、表現系科目の教科間連携、ICT活用など、現代的な教育課題に対応した取り組みも進展しており、学生の専門性を深化させる教育内容が充実している。また、専任教員が地域の保育・福祉分野に積極的に貢献していることは、本学の社会的使命を果たす上でも大きな意義を持ち、学生の実践的指導力の向上にも寄与している。

一方で、学修成果の可視化やデータの組織的な分析体制、専攻科における課題負担の調整、教員間の情報共有の強化など、改善すべき点も今回の自己点検により明らかになった。これらは、教職課程の質向上に向けて取り組むべき重要な課題である。特に、保育・教育分野における ICT 化の進展に対応した教育内容の充実は、今後の教職課程・教員養成において不可欠であり、計画的かつ組織的な取り組みが求められる。

総じて、本学短期大学部保育科および専攻科保育専攻の教職課程は、理念に基づく教育、学生支援の充実、地域との協働を基盤として、着実に成果を上げている。今回の自己点検で明らかになった強みをさらに伸ばすとともに、課題に対しては組織的な改善を進めることで、より質の高い教職者養成の実現が期待される。短期大学部としても、教職員が一丸となって教育の質保証と改善に取り組めるよう、引き続き支援と環境整備に努めていく。

鶴見大学短期大学部  
短大部長 田坂 裕子

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	12
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	17
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	17

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 教職課程の現況

- (1) 大学名: 鶴見大学短期大学部  
 (2) 所在地: 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3  
 (3) 教職課程の履修者数及び教員

#### ① 教職課程の履修者数

課程等(通学) 令和7年度(令和7年5月1日現在)

学科名	免許種	教職課程履修者数		合計
		1年	2年	
保育科	幼稚園二種	56	61	117
専攻科保育専攻	幼稚園一種	18	-	18

#### ② 教員数

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	7	6	2	0	0
備考:					

- (4) 卒業者の現況

課程等(通学) 令和6年度卒業生(令和7年5月1日現在)

免許種	就職先状況											
	認定 こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援 学校	
	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
幼稚園 二種	10		14									

### 2 特色

保育科は、実践的な教育と禅の教えに基づく「仏教保育」を特色とし、専門的知識と豊かな人間性を兼ね備えた保育者の育成を目指している。2年間の学びを通じて、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得することが可能であり、令和2(2020)年度から令和6(2024)年度の5年間で約95%が両資格を取得して、幼稚園教諭として、また、幼保連携型認定こども園などで保育教諭として活躍している。

実習体制も充実しており、附属の三松幼稚園や總持寺保育園などとの連携により、安心して実践的な学びを深めることができる。多様な実習先を通じて、現場での経験を豊富に積むことができるのも大きな魅力である。

また、神奈川県内で最も長い歴史を持つ伝統校として、これまでに1万4,000人以上の卒業生を輩出してきた。長年にわたる信頼とネットワークにより、実習や就職においても手厚い支援体制が整っており、就職率は100%という高い実績を誇る。

専攻科保育専攻は、短期大学卒業後にさらなる成長を目指す学生のための学びの場である。少人数教育によるきめ細やかな指導を特色とし、自ら選んだ研究テーマに基づく実習・学修・研究を通じて、高度な専門性を身につけることができる。

保育内容や保育環境に対する深い考察と実践的研究を重ねることで、質の高い保育力を備えた保育者の養成を行っている。また、本専攻を修了後、鶴見大学文学部などでさらに単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格すれば、学士の学位（4年制大学卒業と同等の資格）および幼稚園教諭一種免許状の取得が可能である。

なお、学位授与機構に認定されている専攻科保育専攻は、神奈川県内では鶴見大学短期大学部のみである。専攻科保育専攻は、保育者としての資質をさらに高め、専門性を深めるための貴重なステップアップの機会である。

このように、保育科・専攻科保育専攻では、伝統・実践・人間教育の三本柱を基盤に、心と専門性の両面で成長できる教育環境を提供している。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

##### 〔現状〕

保育科・専攻科保育専攻では、学則、全学ディプロマ・ポリシーのもと、以下の通りディプロマ・ポリシーを定めている。

##### 保育科学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 教育、保育、福祉、医療の各分野に通底した生命尊重の思想や倫理観を基盤にして、深い自己洞察を行い、世界における自己の役割を位置づけることができる。
2. 禅仏教の教えに基づき、保育者として深い教養と広い視野を身につけ、子どもと親に寄り添いつつ子どもの発達を援助できる。
3. 保育者として子どもの健全な発育、発達と福祉を保障していこうとする自覚と実践力をもつことができる。
4. 多様化した現代社会において、保育者としての使命と責任を自覚し、保育に対して主体的、かつ真摯に取り組む意欲をもっている。
5. 感謝と思いやりの心をもって地域社会や家庭とかかわり、専門的知識・技能を備えた保育者として活動する姿勢を身につける。

##### 専攻科保育専攻においては修了認定方針

1. 保育に関する基礎的学修を基に、更に社会の変動にも十分な視野を持って保育の意義を認識できる。
2. 保育に関する基礎的知識を基に、人間性豊かな子どもへの保育実践と保護者支援の専門性に基づく働きかけができる。
3. 保育の専門的実践者として常に研究心を持ち、自己研鑽の姿勢をもち続けることができる。

また、教育職員免許法および保育士養成課程に則った教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を定め、体系的かつ計画的な教職課程教育を展開している。これらの方針は、ディプロマ・ポリシーおよびアセスメント・ポリシーと連動し、教育の目的・目標を明確に示すとともに、学修成果の可視化と評価を可能にしている。

保育科では、各教科をナンバリングし履修系統図として整理し、教職課程科目の位置づけを明示している。専攻科保育専攻においても同様に、教育課程内での教職課程科目の役割を明確にし、学生が体系的に学修を進められるよう配慮されている。これらの情報は本学ホームページに公表され、関係教職員に共有・周知されている他、非常勤講師交流会でも説明が行われている。

さらに、保育科 1 年生を対象とした「教育実習及び保育実習に関する実習総合オリエンテーション」では、専任教員全員が出席し、学生と教員が一堂に会して教職課程教育の目的や体系につ

いて理解を深め、共有する機会を設けている。このような取り組みにより、教職指導が計画的かつ一貫性をもって実施されている。

学修成果の評価については、アセスメント・ポリシーに基づき、各教科のシラバスに到達目標と成績評価方法を明示。教職課程を含む全教科については、1 セメスターごとに GPA を確認し、1.0 以下の学生には担任による個別指導が行われている。また、保育科では 1 年次終了時および 2 年次後期開始時に履修カルテを作成し、学生が教職課程科目の到達目標を指標として学修を振り返ることができる体制を整えている。

このように、鶴見大学短期大学部保育科・専攻科保育専攻では、教育課程の編成と実施において明確な方針を持ち、教職課程教育の質と成果を高めるための多面的な取り組みを行っている。

### 〔優れた取組〕

鶴見大学短期大学部保育科および専攻科保育専攻では、建学の精神に基づいた特色ある教職課程教育を展開している。校舎は曹洞宗大本山總持寺の敷地内に位置し、学生は仏教行持の厳粛な雰囲気の中で学びを深めることができる。この環境は、仏教保育の理念を体感的に理解する貴重な学修の場となっている。

保育科では、幼稚園教諭二種免許状取得のための教職課程を設置し、「宗教学」や「仏教保育」を卒業必修科目として開講している。さらに、附属三松幼稚園での実習を通じて、禅仏教の教えと保育実践とのつながりを体験的に学ぶ機会を提供している。一方、専攻科保育専攻では、幼稚園教諭一種免許状取得を目指す教職課程を設け、「仏教保育特論」の開講や附属園などでの学外学習を通じて、より高度な専門性と実践力を養成している。

また、専攻科保育専攻は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に認定された 1 年制の専攻科であり、幼稚園教諭二種免許状保有者が本課程を修了後、さらに 1 年間の科目等履修と所定の単位修得を経て、同機構の審査に合格すれば、学士の学位および幼稚園教諭一種免許状の取得が可能となる。これは神奈川県内でも希少な制度であり、学生のさらなるキャリアアップを支援する体制が整っている。

教職課程の体系や位置づけについては、大学ホームページや履修要項にて広く公表されている他、非常勤講師交流会や実習総合オリエンテーションを通じて、専任教員・非常勤講師・学生の間での理解と共有が図られている。

このように、保育科・専攻科保育専攻では、仏教の精神を基盤とした教育と、実践的かつ体系的な教職課程を融合させた優れた取り組みにより、質の高い保育者の育成を実現している。

### 〔改善の方向性・課題〕

教職課程教育の目的は、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて共有されているが、今後はその内容をさらに明確化し、学生にも分かりやすく伝える必要がある。次年度以降、各教科と各ポリシーとの関連性をシラバスに明記することで、学修成果の可視化と理解の深化を図ることが求められている。

### < 根拠となる資料・データ等 >

資料 1-1-1: 建学の精神

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/spirit.html>

資料 1-1-2: 教育方針(3つのポリシー)

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>

## 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状〕

本学保育科および専攻科保育専攻は、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および現場経験のある教員を適切に配置している。また、短期大学部教務課では学科の教育課程および教職課程を統括的に管理している。教員は保育科・専攻科保育専攻共に担任制に基づく学生支援を行っており、担任は必要に応じて教務課や学生支援課と連携しながら個々の学生の学修状況の把握や課題に対応する学修支援体制を構えるなど、適切に教職課程を運営している。

教職課程に関する重要な事項を研究・協議または処理するため、令和 4 年 4 月 1 日に「教職課程運営委員会」が設置され、短期大学部の保育科長・専攻科主任、保育科教務委員、保育科教職課程担当教員、専攻科教職課程担当教員、歯科衛生科教員、教務課長、その他必要に応じて委員会が出席を求める教職員が委員となっている。当該委員会は、(1) 教職課程に係るカリキュラムの編成及び実施に関すること、(2) 教育実習の企画及び運営に関すること、(3) 委員会及び教職課程に係る自己点検・評価に関すること、(4) 教職課程に関して調査・研究し、又は協議・検討して企画・提案すること、(5) その他教職課程に関する必要な事項を審議するものである。

教職課程教育を行う上での施設・設備については、併設する鶴見大学文学部と共用しており、201 名以上収容の講義室が 7 室、91～200 名収容が 5 室、さらに演習室が 18 室、情報処理学習室が 1 室、語学学習室(マルチメディア教育センター)を 4 室設置している。短期大学部専用棟(4 号館)には、練習アシスト付き電子ピアノ 50 台がある音楽室や個人練習用のピアノレッスン室 17 室などがあり、造形室や調理実習等を行う実習室も整備されている。また、体育館には室内競技場、リズム室があり、十分に体を動かせるスペースがある。それぞれの教室には必要に応じてプロジェクターやスクリーン、DVD やブルーレイ、ビデオ等各種再生機、書画カメラなど、多様な授業内容や遠隔授業の提供に資する設備があり、教務課・管財課が対応・管理している。図書館は学術雑誌、電子情報などを含め約 87 万冊の蔵書があり、充実した整備状況である。図書購入の選定は、専任職員 2 名を担当とし、図書委員会での推薦図書及び教職員、学生からの希望図書もその対象に含めている。書庫狭隘化解消や学外からの資料へのアクセスを促進するために、電子資料の積極的な導入に努めている。また、図書館では、国立情報学研究所が大学情報環境整備支援のために提供している「学認」や「UPKI 電子証明書サービス」を導入しており、学術情報の公開、共有の為にツールとして「CiNii Research」「CiNii Books」「CiNii Dissertations」「NACSIS-CAT/ILL」「IRDB, JAIRO Cloud」を利用し、「オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)」に加盟することで、教育研究支援を行っている。また、他大学図書館との連携として、「神奈川県図

書館協会」「神奈川県大学図書館協議会」「横浜市内大学図書館コンソーシアム」などに加盟し、共通閲覧証により他大学図書館の利用を可能とするなど、利用者サービス向上に努めており、専攻科保育専攻の学生が特別研究や保育内容研究等の自己学習を行う際の充実した資料が整っているとともに、保育科の学生が実習の際に必要な絵本や紙芝居など保育に特化した書籍等を含め、各教職課程における教科・教職科目の学修に十分な資料が用意されている。

本学は、入学時に新入生(および全授業担当者・職員)に Microsoft 社のアカウントを付与し、同社の Teams やメールソフトを使って即座に教員に相談できる体制を整備している。また、インターネット接続等に関する技術的なサポートの他、学習支援システム manaba の利用方法については、教務課を中心に、教務委員及びクラス担任や情報システム課と連携しながら、学修を支援している。端末の確保や接続が難しい学生に対しては、学内のパソコンルームや図書館の PC を提供し、キャンパス内には無線 LAN や印刷機器を配備している。なお、オンデマンド授業については、視聴や課題提出の期間を 1 週間ほど設けるようにしており、体調不良や通信環境不良にも対応できるようにしている。

### 〔優れた取組〕

保育科は、幼稚園をはじめ保育所や施設などの現場経験者を多く採用し配置している。保育内容研究(保育内容指導法の科目)をはじめ多くの科目において専任教員と非常勤講師が連携を取りながら共に担当している。教職課程の質については、学生が 2 回以上欠席した場合には、教科担当者から学生支援課へ連絡、その結果が全専任教員に情報共有され、クラス担任が本人へ個別指導を行い、学生がリタイアせず学び続けることができるよう支えている。また、各教科について学生に授業アンケートを行い、その結果はグラフ等によって可視化し、授業改善に繋がるようにしており、教員表彰制度のもと、授業アンケートで高い評価を得た教員を表彰している。そして、短期大学部の教員は相互の授業を参観し、提出された授業参観報告書をもとに反省及び今後の課題等を記した報告書を提出して、教育の質の向上に努めている。さらに、内外の講師を招き、毎年、授業及び教育の質の向上のための FD 講演会を開催している。

担任制を採り迅速な対処と学生の情報共有が可能であることに加え、本学保健センターが心身の健康、保健衛生及び安全への配慮の中心となっていることが特色である。特に体調不良、感染症の恐れや持病のある学生については、保健センターが一括して管理し、常駐の看護師がいつでも相談できる体制を取っている。実習中の感染症の罹患、または体調不良等の学生にも対応ができています。また、令和 2(2020)年度から令和 6(2024)年度の 5 年間で就職率は 100%であり、このうち保育士資格または幼稚園教諭二種免許状を活かした就職は 96.4%となっている。

教職課程の質については、GPA 分布、単位取得状況、免許資格取得状況、また 1 年次終了時、2 年次後期開始時に学生が記入する「履修カルテ」等を共有・点検している。1 セメスター毎に GPA が 1.0 以下の学生には個別指導を行い、その結果を教務委員会に報告し共有している。また、学生には「学生の学修・生活に関する調査」を実施して実態を把握し、「卒業時アンケート調査」の学修成果に関する設問からはディプロマ・ポリシーと関連付け、ディプロマ・ポリシーに応じた学修成果を把握している。なお、学修成果の把握及び評価の取り組みについては、全学教学マネジメント会議・全学自己点検評価委員会・大学運営協議会が関わっている。

神奈川県下の保育者養成校では、一番歴史のある伝統校であり、多くの卒業生が現場で保育

者として活躍しているため、卒業生の協力も得ながら現場での学びと大学での学びをリンクさせ、教職課程における学びを深めている。

**〔改善の方向性・課題〕**

令和 4 年 4 月 1 日に「教職課程運営委員会」が設置されて以来、教務課、保育科、専攻科保育専攻、歯科衛生科の委員の協働により教職課程の質保証に取り組んでいる。今後更に、実習を含む教職課程教育の充実と自己点検評価の組織的な実施を促進することが課題である。

**< 根拠となる資料・データ等 >**

資料 1-2-1: アゴラ第 157 号(2025 年 9 月 30 日)

資料 1-2-2: 鶴見大学図書館資料収集・管理規程

資料 1-2-3: 短期大学部 就職状況(5 月 1 日現在)(2018 年度～2024 年度)

データ: 鶴見大学図書館ホームページ

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/library-official>

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状〕

本学では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえた学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を定め、大学案内や募集要項、大学ホームページ等に公表している。また、選抜方法ごとに入学者選抜方針を示すと共に、入学前の学修歴、学力水準、能力等の求める学生像を明記して、募集要項や大学ホームページ等に公表している。保育科については、オープンキャンパスや高校教諭対象入試説明会等で、専攻科保育専攻については、専攻科進学説明会において説明し、各教職課程で学ぶにふさわしい学生像を理解した上で入学できるようにしている。入試においては、入学者選抜方針により適切に選抜し、入学者の質が確保できるようにしている。

保育科では、入学者のほとんどが教職課程で学び、令和 2(2020)年度から令和 6(2024)年度の 5 年間で幼稚園教諭二種免許状取得状況は約 97%である。そのため、入学者受入れ方針が教職課程の履修を開始・継続するための基準である。教職課程認定申請は入学定員によって行っており、卒業認定・学位授与の方針も踏まえて教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れていると言える。履修にあたっては、入学時の教務オリエンテーションにて、教職課程について説明し、履修登録時には幼稚園教諭への基本的理解と意欲を確認し、履修が開始できるようにしている。

教職指導としては、1 年次前期に設置した「教育実習概論」において、教職に対する自覚や責任をもち、教育実習に臨む姿勢を培うように指導している。5 名の専任教員が担当し、教員一人あたりの指導学生数を少なくすることで、個々の学生に応じた指導が可能となるようにしている。「履修カルテ」は 1 年次終了時と 2 年次後期開始時に記入し、学生が教職科目についての学修を振り返り、履修状況を把握できるようにするとともに、教員が教職指導に活用している。1 年次半ばの学修の振り返りの機会が無いことが課題であったが、1 年次前期科目である「保育内容総論 a」において学修の振り返りを実施している。今後は、1 年次半ばの振り返りについても履修カルテに取り入れることを検討していく。

また、クラス担任制を採っており、2 年間を通じてほぼ同じ専任教員が、学生の教職への意思や履修・実習等の状況を把握し、必要に応じてきめ細やかな個別指導を行っている。

専攻科保育専攻の教職課程を経て教員免許状を取得するためには、基礎資格として幼稚園教諭二種免許状が必要となる。そのため、教育課程編成・実施の方針も踏まえ、幼稚園教諭二種免許状の教職課程を履修していることが教職課程の履修を開始・継続するための基準となる。令和 2(2020)年度から令和 6(2024)年度の 5 年間で合計 22 名が学士の学位及び幼稚園教諭一種免許状を取得した。保育専攻の入学定員は、令和 6(2024)年度より変更し 15 名であり、卒業認定・学位授与の方針も踏まえ、教職課程認定基準に照らし、適切な規模の履修学生を受け入れている。

教職指導としては、専攻科保育専攻担任が学生の教職への意思や履修状況を把握し、必要に応じて個別指導を行っている。また、教職課程外ではあるが「専攻科実習」を設置し、実習に臨む

にあたって幼稚園教諭二種免許状取得者としての自覚と責任を確認するとともに 4～5 名の専任教員が担当することで、4 名以下の学生あたり 1 名の教員が、個々の学生の適性や資質に応じた教職指導を行っている。

### 〔優れた取組〕

保育科では「総合型選抜」の面接を「面接型(対話)」「プレゼンテーション型」の 2 種とし、受験生が自らの長所や特性に合わせて選択できるようにするとともに、保育者を目指す意思を受験生自身が確認したり、専門領域への関心を高めたりすることができるよう工夫している。

また、入学予定者に対し、入学後の学修に備えた基礎学力と学習意欲の維持・向上を目的に、入学前教育を実施している。令和 6 年度まで実施してきた入学前教育課題は、専任教員が作成した、保育に関する文章問題であり、基本的な国語及び保育の考え方に触れることができるものである。回答に対しては専任教員が分担して採点を行い、所見を記して担任から返却することを通して、入学後の専門分野の学修に繋がるようにしてきた。一方で、学生同士の関係が円滑に構築されることが、入学後の学修意欲の向上に結びつくことも多いため、教職課程における学びへの関心・意欲をいっそう高めると共に、学生同士の関係構築を図る機会を提供できるよう、入学前教育の内容を見直し、令和 7 年度より対面実施へと移行した。個々の学生が教職課程での学修について知り、より安心して学修をスタートすることを目指している。具体的には、①入学後の学びへの期待や学びの基礎を育む、②様々な横のつながりを作る、③教員と学生との一体感を体験する、の 3 つを大きなねらいとして実施した。

また、希望者には本学音楽室において、入学前にピアノの個別指導を行っている。未経験者であっても慣れないピアノ演奏への不安を和らげ、習得への見通しをもって入学への準備ができるようにしている。

専攻科保育専攻では、面接、小論文、志望動機、研究したいテーマ、単位成績証明書によって選抜を行い、それまでの学修を基盤として専門的課題意識をもって入学できるようにしている。入学時には既に幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得または取得見込みであり、保育に関する基本的知識と技能を修得した学生が、幼稚園教諭一種の教職課程において更に学修が深まるよう準備している。

### 〔改善の方向性・課題〕

入学前教育の内容を見直し、令和 7 年度より対面実施へと移行した。入学前に学生同士、学生と教員が顔を合わせる機会を設定でき、学修へのステップを構築できたことは大きな成果であり、今後は、プログラム内容のさらなる充実と、欠席者に対するより手厚いサポートを検討していく。

専攻科保育専攻では、幼稚園教諭一種免許状の取得のためには専攻科修了後 1 年間の学修を必要とする。その間のサポートは個々の教員が行っているため、担当教員間における共有や、学科として全体状況の把握を行うよう検討を継続する。

### < 根拠となる資料・データ等 >

資料 2-1-1: 大学案内 2026

資料 2-1-2: 鶴見大学短期大学部募集要項

資料 2-1-3: 専攻科(保育専攻)募集要項

資料 2-1-4: アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>

資料 2-1-5: 資格取得等実績

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/junior/childhood-index.html#sikaku>

資料 2-1-6: 鶴見大学データ BOOK

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/databook.html>

資料 2-1-7: シラバス

資料 2-1-8: 履修カルテ

資料 2-1-9: 専攻科保育専攻入学者数及び入学時保有資格免許の状況

資料 2-1-10: 専攻科実習の手引き

資料 2-1-11: 保育科入学前プログラムの案内

資料 2-1-12: 保育科入学前ピアノ指導の案内

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状〕

保育科・専攻科保育専攻では、入学者のほとんどが教職課程で学ぶため、入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)に従い選抜試験を実施し、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

キャリア支援課が実施する就職ガイダンスでは、学生が実習で学んだことを今後に繋げることができるよう、学修過程を踏まえた就職までの見通しや就職活動に際しての注意事項等を伝えることで、学生のニーズに応えたキャリア支援を実施している。

また、各施設より内定を得た先輩学生から後輩学生に対して、内定報告会を催し、就職活動や内定を得るまでのリアルな声を伝えることで、就職活動をより深く理解できるようにしている。

教職に就くための情報提供については、「学内情報システム(ポータルシステム)」や学内掲示板を通して、各都道府県や園の採用試験及び説明会情報を提供している。これにより、教職に就くことを目指す学生がいつでもキャリア支援を受けることができる環境にある。

また、大学に届いた各園の求人票についても「鶴見大学キャリアナビ(キャリアタス UC)」で確認することが可能であり、学生が自ら積極的に情報収集できる環境を整えている。

本学では、「横浜市幼稚園協会」「横浜市保育園こども園園長会」の会長や関係者をお招きし、合同就職ガイダンスを教員協力のもと催している。

また、横浜市、東京都等の幼稚園協会が主催する養成校との交流会に教職員が積極的に参加し、卒業生の状況を把握している。

### 〔優れた取組〕

内定報告会では、内定を得た先輩学生から就職活動の実体験を話すことで、後輩の就職活動に活かすことができる。特に、筆記試験対策や面接対策等、参考本を持参して話す学生もおり、内

定報告会終了後に後輩学生が先輩学生に直接質問をして交流している姿も特色として挙げられる。

「学内情報システム(ポータルシステム)」を通しての情報提供に加え、教員とも連携して主に授業で使用する「学習支援システム (manaba)」でも情報の配信を行い、学生が情報の取得漏れのないようにしている。

「横浜市幼稚園協会」「横浜市保育園こども園園長会」合同就職ガイダンスにおいて、各幼稚園の求める教員像ややりがい等、より深く教員の仕事について理解することができている。また、合同就職ガイダンスには卒業生も登壇しており、どのように就職活動を進めてきたか等のリアルな声を知ることができ、幼稚園教諭の存在をより身近に感じることができる。

### 〔改善の方向性・課題〕

キャリア支援課を中心に、学生の教職への意志や希望を丁寧に確認しており、多くの学生が自身に適した就職を実現している。一方、近年就職活動が早期化しており、十分な学修を基にした就職支援が難しい学生もいるため、個々の状況把握をより丁寧に行うことが課題である。

### < 根拠となる資料・データ等 >

資料 2-2-1: アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>

資料 2-2-2: 鶴見大学ポータルシステム

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/campus/service.html>

資料 2-2-3: manaba

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/campus/manaba.html>

資料 2-2-4: 鶴見大学キャリアナビ

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/career/careernavi.html>

## 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### 〔現状〕

保育科及び専攻科保育専攻では、全学ディプロマ・ポリシーのもと、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び修了認定方針(ディプロマ・ポリシー)を定めている。また、これらに掲げた能力を身に付けることができるように、教育課程を編成している。

保育科では、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、1年次前期に「宗教学」を配置することで禅的情操及び多文化共生の考え方を基盤に各教科の学修が展開されるようにしている。また後期に「仏教保育」を配当し、禅的情操教育と保育の専門科目との関連性が理解できるようにしている。倫理教育については、1年次の必修科目である「保育者論」の授業において、2年次は年度はじめのオリエンテーションにおいて行われ、人権擁護や研究倫理等の他、メディアリテラシーについて理解が深められるようにしている。幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得、もしくは同等の能力の獲得を求めており、教育課程における保育の専門科目の多くは教育職員免許法または保育士養成課程に即して編成している。

教職課程科目はコアカリキュラムに対応しており、基本となる内容を十全に押さえつつ、全体の系統性を考慮して教職課程を編成している。具体的には、「子どもと健康」等領域の専門的事項に関する科目、「保育内容総論」「教育原理」等の基礎的知識・技能に関する科目を主に1年次に配当し、「保育内容研究 e」等の保育内容の指導法に関する科目の一部、「幼児理解と教育相談の基礎」「特別支援保育」等の各論的応用的科目を主に2年次に配当するとともに、1年次後期・2年次前期に「教育実習」を設定することで、保育現場での実践を中心に体系的に学べるようにしている。

情報活用能力の育成として、教育職員免許法に基づき「情報機器の操作」の教科を設置し、一人一台のPCを使用して実践的な授業を展開している。また、保育内容の指導法に関する科目において、幼児教育におけるICT活用について学ぶ。

また、学生の主体的参加を促し効果的に教育を行うため、教員・学生間や学生同士のコミュニケーションの機会を確保する他、グループ活動やディスカッション等を取り入れ、主体的対話的に学習が深まるように工夫している。1年次4月から随時、附属三松幼稚園への保育参加等現場での実践を取り入れながら授業を展開し、知識と実践の往還的な学びが可能となるようにしている。また、少人数でのグループ討議や活動及び調査・研究等の発表を多くの教科で取り入れている。

教育実習を行うにあたっては、教育実習及び保育実習について総合的に説明する機会である「実習総合オリエンテーション」への参加及び、所定の科目の単位修得を要件としている。要件科目については、学生の履修状況を考慮して見直しを行い、令和7(2025)年度からは、教育実習Ⅰは、「教育実習概論の単位を修得していること。保育内容総論a・保育者論のどちらかの単位を修得していること」を要件とし、教育実習Ⅱは「教育実習Ⅰの単位を修得していること。保育内容総論b・教育原理のどちらかの単位を修得していること」を要件とすることとなっている。基本的な考え方を理解し、実習目標をもって実習を行うことで、実りあるものとなるよう指導している。

「保育・教職実践演習」の一環として、1年次終了時、2年次後期開始時に履修カルテに教職

課程科目の自己評価を記入し、各教科の到達目標に対する自身の到達度を手掛かりとして、学生が学修を振り返り、自身の課題や特長を認識し卒業前の 2 年次後期の学修に生かせるようにしてきた。同時に教員もこれらを踏まえて個々の学生の学習効果について把握し「保育・教職実践演習」の授業が展開できるようにしている。

他にも実習巡回報告書から、学生の学修状況を確認している。教育実習の巡回指導は教育実習担当教員と連携しながら全専任教員が担当しており、必要に応じて学生に教職指導を行っている。

専攻科保育専攻は 1 年課程である。教職課程科目外の教科である「専攻科実習」を前期に、実践事例検討を行う「保育演習」を通年に配置し、これらを連動させて実施し、この実践及び実践検討を軸に専門教育科目を配し、有機的に関連し合うことでディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに即した教育課程を編成している。このような教育課程全体の関連性を保ちつつ、教職課程科目についてはコアカリキュラムに対応し、教職に必要な内容が深まるようにしている。設置計 50 単位のうち、40 単位が教職課程科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のためには 20 単位以上の取得が必要である。

教職課程においては、特に「現代保育論」において今日的な課題を学んでいる。「保育内容研究 1～3」等の保育内容の指導法に関する科目においては、保育における ICT 機器の活用についても学ぶ。また、学生自身もレポートや発表等は PC を用いて行うことが多く、自宅や学内において ICT 機器を活用している。

「保育内容(表現)特論」や「保育指導法研究」をはじめ、多くの教科でグループディスカッションや附属三松幼稚園等の保育現場への参加を通して、主体的対話的な深い学びが得られるようにしている。

教職課程における実習は設置されていないが、「専攻科実習」における保育現場での取り組みや、「専攻科特別研究」における少人数の授業において、学生の保育実践における課題や特性を把握して指導を行う。また、専攻科保育専攻担任が学生の教職への意思や履修状況を把握し、必要に応じて個別指導を行っている。

保育科・専攻科保育専攻いずれにおいても、シラバスの内容は、目的・概要説明、到達目標、授業スケジュール、準備学習(予習復習の時間含む)、指導方法、成績評価の方法、テキスト、参考書、備考である。成績評価の方法は、学期末試験、小テスト、レポート等の評価項目の内訳をパーセント表示し、その合計が 100%になるようにしている。

#### 【優れた取組】

保育科では基礎的知識・技能に関する科目を主に 1 年次に、各論的応用的科目を主に 2 年次に配当する等教職課程科目配置の工夫を行っている。

また、教育実習指導の充実を図っている。幼稚園・保育所・施設の 3 種類 5 教科の全ての実習を対象とした実習総合オリエンテーションを入学時に行っている。教育課程概念図を説明し、禅仏教の教えと保育の専門科目との関連が理解できるようにするとともに、実習を中心とした関連教科の説明も行い、これらを知った上で学修が進められるようにする。実習総合オリエンテーションには全員の専任教員が参加し、必要に応じた指導を行うとともに、実習を中心とした各教科の関連性や全体像が把握できるよう工夫している。

教育実習の科目として、教育実習Ⅰ(事前事後指導含む)2単位、教育実習Ⅱ(事前事後指導含む)3単位に加え、1年次前期に「教育実習概論」2単位を設置し、教育実習の知識、態度、幼稚園の生活や子ども理解について学ぶ(「教育実習概論」については、令和8(2026)年度より「実習概論」へ再編予定)。1年次4月から随時附属三松幼稚園での保育参加を行い、実習への理解を深める。また、1年次9月には同園にて1日実習を行い、11月の教育実習に向けて見通しをもった準備ができるようにしている。

また、10月には実習交流会を実施している。実習を全て終えた2年次学生が主体となって少人数グループで行い、これから実習に臨む1年生に実習の体験と学びを伝える取り組みである。原則として全員の専任教員が参加し、学年を超えた学び合いを見守るとともに、必要に応じて教員が助言することで、実習に向けて多様な視点や課題意識を持つことに繋がっている。

専攻科保育専攻では、教科間連携によってより統合的な学びとなるよう工夫している。「保育内容研究3(表現)」は表現分野を中心に専任教員5名が担当し、「音楽」「造形」「身体表現」「環境」と異なる分野の専門性を統合しながら多様な角度で子どもの「表現」を総体として捉える展開をしている。令和4(2022)年度から教育課程変更を行い、領域の専門的事項に関する科目として「保育内容(表現)特論」を設置し、上記のうち4名が担当することで、連続性を更に強化している。

その他教職課程外ではあるが、「専攻科実習」と「保育演習」を連動させて展開していることも特色である。前期は実習のため週1日は学内授業を設定しないよう時間割を工夫し、「専攻科実習」で週1回実習を行い、実習ごとに学内での「保育演習」にて記録を基に実践を振り返り、深める、という過程を6回繰り返しながら課題を明確にしていく。このような研究的態度で課題を探究することで、知識と実践の往還的な学びを確かなものにする。また、「保育演習」は通年科目であり、この学びが他教科と関連し合っ体系的な学びとなっている。

なお、保育科・専攻科保育専攻共に、保育現場での体験的な学習の強化に加え、表現系科目の充実や学修効果の向上を図り、より体系的な学びが深められることを目指し、令和7年度に教育課程の見直しを行い、令和8(2026)年度より教育課程の再編を行う予定である。

### 〔改善の方向性・課題〕

保育科の取り組み上の課題としては、学修成果の把握方法の検討をより一層図っていく必要がある。学修成果の把握にあたっては、履修カルテの記入や実習巡回報告書等による把握が直接的で非常に示唆に富む一方、十分な分析や共有には至っていない部分もあり、組織的な改善にはなりにくい現状がある。より有効な活用方法について検討する。

報告書は適切に管理されているが、それらをどのように共有し、学生指導に活用していくかが課題となっているため、今後は、ICT化等、個々の学びの成果についてより有機的な活用方法を検討していく。

専攻科保育専攻の取り組み上の課題としては以下が考えられる。専攻科学生は、主体的実践的な内容も多く、自己学習にも積極的に取り組んでいる。一方、同一期間に課題が重なり負担になることもあるため、教員間における情報共有や教育課程全体の実際を把握する必要がある。また、保育科・専攻科保育専攻ともに、今日の保育・教育業界におけるICT化の進展に合わせた対応や具体的取り組みについて検討していくことが課題となっている。

### < 根拠となる資料・データ等 >

資料 3-1-1: 教育方針 (3 つのポリシー)

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>

資料 3-1-2: シラバス

## 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

### 〔現状〕

令和 5 年～令和 7 年度 8 月現在に至る保育科専任教員の実践的指導力育成と地域との連携活動について調査を行った。保育科専任教員は、熱心な授業の工夫と丁寧な学生とのかかわりを重視した授業への取り組みにより、卒業生の保育現場での評判は高い。また保育科はクラス担任制を敷き、一人一人の学生への心のケアを丁寧に行うとともに保育科全体としても把握に取り組んでおり、その成果は十分に感じられる。

それらを踏まえた上で、今回の調査では約 2 年半での地域活動として 177 件のデータが挙げられた。その地域は海外を含め全国にわたり、貢献内容は多義にわたる。

### 〔優れた取組〕

横浜市・神奈川県・東京都をはじめ全国の保育現場で働く現職の保育者のために、研修指導や相談員を長く頼まれて実施している点は優れた取り組みと言える。全国規模の大きな講演も、幼稚園や保育所の園内研修も保育現場の要望に沿った講演・研修指導・保育相談を志し、そのために毎年、何度もお声がけいただけていると考える。

保育科は、附属三松幼稚園と社会福祉法人総持寺保育園及び総持寺本町通り保育園が鶴見大学同法人による運営のため、保育科教員と附属幼稚園・保育園とは保育指導や我々の研究においても密接につながっている。そして同法人の幼稚園、保育園を基盤として鶴見区から横浜市、さらには神奈川県の保育施設の地域連携へと広がっていったのである。

特に附属三松幼稚園においては「こども環境学会 2026 大会 (横浜) プレ・セミナー」が令和 7 年 12 月に開催されたり、横浜市幼保小連携研修会を実施したりなど、附属三松幼稚園の新しい幼児教育の実践を広く地域に示しており、全国からの見学者が絶えない。

能登地震の災害に遭われた方々に対して、ボランティアとして保育・福祉からの様々な支援を学生と共に伺って手助けしている。県単位や保育施設からの依頼による保育相談員や、子ども食堂のボランティア、児童虐待防止のキャンペーンに学生と共に取り組むなど福祉活動にも力を入れている。

もちろん仏教大学として、日本仏教保育協会からの依頼で講演を実施したり、研修指導を実施したりするなどの役目を果たしている。

また、海外での講演 (ノルウェー・イタリア・ベルギー・ドイツ) やパリ 2024 パラリンピックでのインクルーシブダンスのパフォーマンス等世界での活躍も注目すべき点である。

### 〔改善の方向性・課題〕

今回のような保育科専任教員の地域貢献についてまとめる機会があったので、数多くの研修指

導やボランティアを実施している現状把握ができた。実際にはさらに多くの研修を実施している教員もおり、データに挙がっていない内容もまだ多くあると推測する。

今後の課題として、短期大学部保育科からの地域への発信と積極的な貢献が期待される。そしてさらに益々教員の専門性を生かした地域貢献がなされることを望む。また、多くの卒業生が保育の現場で働いている状況下で、リカレント教育についても今後の課題として考えていきたい。

**< 根拠となる資料・データ等 >**

資料 3-2-1: 地域との連携活動内訳

資料 3-2-2: 地域との連携活動場所

資料 3-2-3: 地域との連携活動一覧

### Ⅲ. 総合評価(全体を通じた自己評価)

鶴見大学短期大学部保育科・専攻科保育専攻の教職課程は、建学の精神である禅仏教の理念を基盤に、3つのポリシーが相互に補完し合う形で教育課程を構成している。教育課程の目的や到達目標は学内外に明確に示され、実習総合オリエンテーションや非常勤講師交流会などを通じて、教職員と学生が共通理解を形成する機会が継続的に設けられている。

学生支援の面では、入学前教育や総合型選抜の工夫、履修カルテを活用した学修の振り返り、担任制による個別支援など、入学から卒業までを一貫して支える体制が整備されている。少人数教育を活かした丁寧な指導は、免許状取得率や就職率の高さに結びつき、地域の保育現場からの信頼にもつながっている。

カリキュラムは基礎から応用・実践へと段階的に学べる構造が確立されており、附属幼稚園との連携による保育参加や実習交流会など、実践的な学修機会が豊富に提供されている点が特徴である。専攻科では、実習と演習を往還的に関連づけた学修が展開され、表現系科目の連携やICT活用など、現代の保育・教育現場のニーズにも対応している。

さらに、専任教員が地域の保育・福祉分野で研修指導や講演、相談活動を行うことで地域とのつながりを深め、学生に実践的な視点をもたらしている。附属園との協働や福祉活動への参加など、地域社会との関係性が教育内容に良い影響を与えている点も確認できる。

一方で、学修成果の把握・分析・共有の方法については、履修カルテや巡回報告書の活用が十分に組織化されておらず、改善の余地が残されている。専攻科における課題の集中、教員間の情報共有不足、保育・教育分野のICT化への対応など、今後取り組むべき課題も明確になった。

総合的にみると、本学の教職課程は理念に基づく教育体系、充実した学生支援、地域との連携による実践的な学びなど、多面的な取り組みにより成果を上げている。今後は、学修成果の可視化やデータ活用、ICTを取り入れた教育内容の充実を図り、教育の質向上に向けた改善を継続していくことが求められる。

### Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

第1プロセス：教職課程運営委員会において実施方針及び実施手順を検討する。

第2プロセス：保育科・専攻科保育専攻の教職課程委員は、教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。

第3プロセス：保育科・専攻科保育専攻の教職課程委員は、それぞれの教職課程の自己点検評価の進め方（観点や収集資料等を含む。）を検討し、点検評価活動を実施し、活動結果をもとに報告書を作成する。

第4プロセス：教職課程運営委員会は自己点検評価報告書を最終確認した後、短期大学部教授会、全学自己点検評価委員会へ報告し、承認を得た上で情報を公表する。

第5プロセス：教職課程運営委員会は、自己点検評価活動によって確認した課題を抽出・共有し、改善・向上に向けたアクションプランを策定する。